

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : ベンジルアルコール

会社情報

会社名 : 関東化学株式会社
住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門 : 試薬事業本部 企画管理部 資料課
電話番号 : (0120)260-489
FAX番号 : (03)3241-1047
メールアドレス : BC32@kanto.co.jp

整理番号 : 04144
推奨用途 : 試験研究用
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	引火性液体	区分 4
健康有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	区分 4
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
	皮膚感作性	区分 1A
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（中枢神経系、腎臓）
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（中枢神経系）
環境有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 2

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 可燃性液体
飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合は有害アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
臓器の障害（中枢神経系、腎臓）
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（中枢神経系）
水生生物に毒性

注意書き

安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
ミスト／蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 応急措置 : 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 口をすすぐこと。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。
- 廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 物質
 別名 : ベンゼンメタノール、フェニルメタノール

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
ベンジルアルコール	≥ 99	C7H8O	3-1011	既存化学物質	100-51-6

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
 皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
 眼に入った場合 : 直ちに流水で15分間以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。
 飲み込んだ場合 : 揮発性があるので、吐き出させるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。
 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷 : 蒸気を吸入すると、咳、めまい、頭痛などを起こす。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、乾燥砂、耐アルコール性泡
 使ってはならない消火剤 : 水、普通の泡消火器
 消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
 初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断すること

消火を行う者の保護 : 呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気に注意する。

安全取扱注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。
酸化剤と接触させない。

保管

安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス。
塩化ビニル樹脂、ポリスチレンなどは使用しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 上限	25 mg/m ³
ACGIH TWA	設定されていない

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : 無色

臭い : わずかな芳香

pH	: データなし
融点	: -15.3 °C
凝固点	: データなし
沸点	: 205.45 °C
引火点	: 93 °C (C.C.)
自然発火点	: 436.1 °C
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性
蒸気圧	: 0.132 hPa (20°C)
相対密度	: データなし
密度	: 1.043 - 1.048 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: 3.7
溶解度	: 有機溶媒: エタノール、ジエチルエーテル、クロロホルムに可溶。 水: 3.7 % (20°C)
n-オクタノール/水分配係数 (log Pow)	: 1.1
爆発限界 (vol %)	: 1.3 - 13 vol %
動粘性率	: 7.4 mm ² /s (15°C)
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性	: 通常条件で安定である。空気に触れると徐々に酸化されベンズアルデヒドとベンジルエーテル、安息香酸になる。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、熱。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 飲み込むと有害 ラット LD50=1200mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 皮膚に接触すると有害 ウサギ LD50=2000mg/kg
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない (気体) 分類できない (蒸気) 区分に該当しない (粉じん、ミスト)
急性毒性 (吸入:ミスト)	: GLP 準拠データでは、4.178 mg/L で死亡例がないことから、区分に該当しないとした。
皮膚腐食性/刺激性	: 区分に該当しない OECD TG 404 に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で非刺激性と報告されている。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 強い眼刺激 OECD TG 405 に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で、中等度の刺激性と報告されている。以上より、区分 2A とした。
呼吸器感受性	: 分類できない
皮膚感受性	: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 日本産業衛生学会では感受性物質皮膚第 2 群に分類している。また、本物質に対して様々な程度の陽性反応が示されたとの多数の症例報告がある。

生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない In vivo では腹腔内投与によるマウス骨髄細胞の小核試験で陰性である。 In vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性である。
発がん性	: 区分に該当しない ラットおよびマウスに2年間強制経口投与した発がん性試験で、両種の雌雄ともに発がん性の証拠なしと結論された。
生殖毒性	: 分類できない 発生毒性は母動物毒性発現用量で軽微な影響がみられたのみで、性機能及び生殖能に関する情報がなく、データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害(中枢神経系、腎臓) 眠気又はめまいのおそれ 本物質を34.8%含有する塗膜剥離剤を吸入した男性が、意識障害を来して昏睡状態で緊急搬送され、血圧低下、進行性の代謝性アシドーシスと尿細管障害による多尿を示し、急性ベンジルアルコール中毒と診断された。事故原因となった剥離剤の他の成分は、水(50%以上)、リン酸(1-5%)、ナフタリン及び過酸化水素(いずれも1%未満)と記載されており、上記の影響は本物質によると考えられる。また、本物質は、皮膚に塗布、又は1%溶液の皮下注射により局所麻酔に使用された経緯がある。さらに、ラットの単回経口投与試験において、抑うつ状態、興奮、昏睡がみられた。影響がみられた用量の記載はないが、LD50値である1,230 mg/kg付近でみられたとすると、区分2に相当する。以上より、区分1(中枢神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(中枢神経系) 本物質は、血管内カテーテル洗浄液の保存剤として使用され、低体重児に神経系の阻害及び致死を引き起こした。また、本物質0.9%を含有する液体の静脈内投与により、低出生体重児に中毒症状(あえぎ呼吸、アシドーシス、痙攣等)が発現した。以上より、区分1(中枢神経系)とした。
誤えん有害性	: 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	: 水生生物に毒性 魚類(ブルーギル) LC50=10mg/L/48h
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない 甲殻類(オオミジンコ) NOEC=51mg/L/21-day

残留性・分解性

良分解性
BOD : 94%

生体蓄積性

低濃縮性
BCF : 1.4

土壤中の移動性

高移動性
Koc : 21

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知

汚染容器及び包装 : 事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

国連番号 (IMDG) : 非該当
正式品名 (IMDG) : 非該当
容器等級 (IMDG) : 非該当
輸送危険物分類 (IMDG) : 非該当

航空輸送 (IATA)

国連番号 (IATA) : 非該当
正式品名 (IATA) : 非該当
容器等級 (IATA) : 非該当
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー : Y

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号、第 2 号別表第 9)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条の 2、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)
ベンジルアルコール (政令番号: 530 の 2)
皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質 (安衛則第 5 9 4 条の 2 第 1 項、令和 4 年 5 月 3 1 日基発 0 5 3 1 第 9 号、令和 5 年 7 月 4 日基発 0 7 0 4 第 1 号・4 該当物質の一覧)
皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質 (安衛則第 5 9 4 条の 2 第 1 項、令和 4 年 5 月 3 1 日基発 0 5 3 1 第 9 号、令和 5 年 7 月 4 日基発 0 7 0 4 第 1 号・4 該当物質の一覧)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第 4 類引火性液体、第三石油類非水溶性液体 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1)

海洋汚染防止法 : 有害液体物質 (Y 類物質) (施行令別表第 1)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

参考文献 : 有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社 (1985)。
Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed.
N. I. Sax 他編 Van Nostrand Reinhold Company (1984)。
17322 の化学商品、化学工業日報社 (2022)。
NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。

* この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたも

のであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253に基づいて作成しております。